

文になるフィオーレ喜連川人vol.34 齋藤はつえ

40歳の時、転職を迎える。ある人形作家の作品の写真を見て神様が作っている！と心を奪われた。以来肌身離さず写真を持ち歩き、何度も眺めていたある時(これは神様じゃなくて、わたしと同じ人間が作ったお人形だわ...)とハッと。同時に(先生のように、厳しい顔のお人形じゃなく、人の心をホッとさせるような優しい顔が作りたい)という気持ちが生えた。それまで



4丁目 齋藤はつえ HATSUE SAITO

人形を誰かに認められ有名になりたいとは一度も考えなかったが、作品を見た知人から個展を開くことを勧められ、周りの手助けもあり実現する。個展初日、お客さんの一人が血相を変えて駆け寄ってきた。「弟子にしてください！」突然のことに驚いたが、悩んだ末『少しでも人様のお役に立てるなら』と自宅の人形教室を開く。「人形の顔が孫の顔にそっくり」という女性はわざわざ福島から新幹線で教室に通った。その縁で齋藤さんは福島に別荘を購入し、人形館でも開こうかと思っていた矢先、どこから聞きつけたのか役場の職員が訪ね「高齢者のいきがいづくり事業として人形製作講座を開い

てほしい」と頭を下げた。その為本格的に東京から単身移住。講座は瞬く間に人気となった。「あるおばあちゃんは、完成した人形を『嫁に見せたい』と言って、片方の手で大事に抱え、もう一方で杖をついて嬉しそうに帰っていききました。その後ろ姿をみて、『やってよかったです』と心底思いました」

方に会えて大切にしていたことができました」

齋藤さんの優しく癒される人形、それが集まる人たちの輪(和)ができ、今度は彼らに優しく大切にされた。「ある方に『この人形の顔を見ていると、嫌なことも一瞬忘れてしまう』と最高の褒め言葉をいただきました。だから一人でも人形を見てそういう気持ちになつて下さる方がいらつしやれば…。そういう幸せを皆さんと分け合って生きていきたい」

たくさんさんの想いの詰まった人形館がいよいよスタート。ここからまた、人形たちが新しい輪を広げていってくださるに違いない。

たくさんさんの想いの詰まった人形館 いよいよスタート text by 大河原千晶

初公開!!
フィオーレ住民の
お風呂特集!!

フィオーレといえば各戸に引かれた温泉。その温泉に相応しいこだわりの”お風呂”を持っている人が実はたくさんいるようです!今回はそんな噂を頼りに3軒のお宅へおじゃましました!!



広い空間に対してやや小さく見える木の浴槽が独特のかわいらしさを醸し出している。壁面でも使われている木材の温かみもあり全体的に優しく落ち着いた印象。特別でありながら、同時に家庭的でもあるちょうどいいデザインが毎日の疲れを癒してくれそう。



まるで要塞!お風呂とは思えないような空間が印象的。大きな天窓からは、日光が降り注ぎ、夜になると星空を望める。自然豊かなフィオーレらしく、風呂に入りながら季節の草花を楽しむのも魅力。浴槽はジェットバスになっていて、孫たちがやって来ると大喜びなんだとか。



洗い場、浴槽共に石造りでさながら旅館の温泉のよう。大きく開放的な窓からは陽光が射し込み、窓を開くとたちまち露天風呂気分を味わえる。暖かくなると、友人を招いて庭でBBQをして温泉に浸かるのがこの家での特別な楽しみなのだそう。



齋藤さんの人形作品「雪の妖精」